

箕面国有林における森林整備の取組について

近畿中国森林管理局
京都大阪森林管理事務所

1. 箕面国有林の概況

- 箕面国有林は、大阪府北部に位置し、面積は 590ha、全域が「明治の森箕面国定公園」に指定されています。
- すぐれた森林景観に恵まれていることから、森林を利用した 保健・文化・教育活動の場として多くの人々に利用されています。
- スギ、ヒノキの人工林とシイ、カシ、カエデ、サクラ、アカマツ等から成る天然林が混在しています。
- 地元の市民団体や関係行政機関から成る「明治の森箕面自然休養林管理運営協議会」と連携しながら、市民社会との連携による森林づくりに取り組むとともに、様々な市民団体に活動の場を提供しています。

2. 箕面国有林における森林整備の特徴

箕面国有林においては、以下の点に留意して森林整備事業を実施しています。

1 公益的機能を重視した多様な森林整備の展開

- ・伐採時に高木性広葉樹を保残(伐採跡地での国土保全機能維持)
- ・林齢や樹種が異なる複層状態の森林へ誘導(生物多様性増進)
- ・帯状伐採など景観に配慮
- ・森林の健全性を保つための積極的な間伐

2 森林・林業再生に向けた林業の低コスト化の推進

- ・伐採から再造林までの一括作業による効率よい作業の実施
- ・コンテナ苗の活用による植栽効率の向上
- ・植栽本数の縮減(植栽本数3,000本→2,000本/ha)
- ・残存立木を活用した獣害防護柵の設置

3 国民の森林としての管理経営

- ・市民参加による里山林の再生
- ・森林環境教育や市民団体の活動のためのフィールドの提供

3. 事業の概要

主伐 伐採方法:複層伐(帯状伐採法)、伐採面積:1.05ha、伐採率:50%

複層伐とは

伐採時に皆伐を行わず一部の木を残し、林齢や樹種が異なる木で構成される複層状態の森林に誘導する伐採の方法。

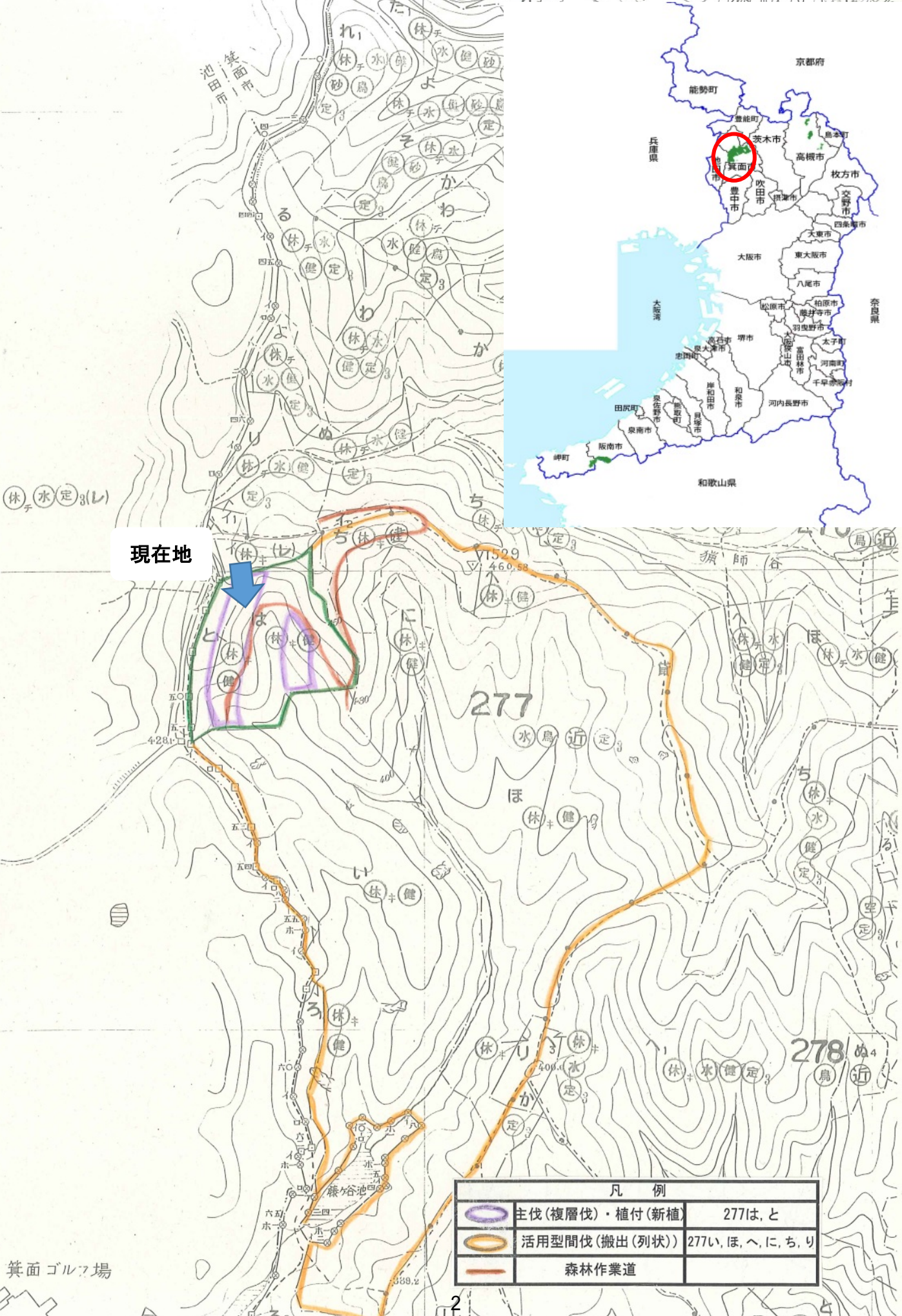
間伐 伐採面積:22.75ha、伐採率:35%(上限)

森林作業道:約 4,700m




素材生産量:約 2,100m³(主伐、間伐区域の合計)

植付面積 :1.05ha (ヒノキ 2,100 本植栽、コンテナ苗を採用)

シカ防護柵 :設置延長 1,150m (支柱は原則として残存立木を活用)



現在地

凡 例	
	主伐(複層伐)・植付(新植) 277は、と
	活用型間伐(搬出(列状)) 277い、ほ、へ、に、ち、り
	森林作業道

箕面ゴルフ場

事業地の林況等（現地検討会）

小班	林地 面積	林 齢	施 業 方 法	樹 種	機能類型	法 令 制 限
277い	10.01	52	育成複 層林へ 導くた めの施 業	<ul style="list-style-type: none"> ・スギ ・ヒノキ 	森林空間利用 タイプ（自然 休養林自然観 察教育ゾー ン）	<ul style="list-style-type: none"> ・水源かん養保安林 ・保健保安林 ・国定公園第3種 ・鳥獣保護区 ・近郊緑地保全区域
277は	2.07	65		<ul style="list-style-type: none"> ・スギ ・ヒノキ ・アカマツ ・ホオノキ など広葉樹 		
277と	0.56					

注：林齢はH28. 3. 31現在

(参考)

① 高木性広葉樹の保残



伐採前



伐採後

② 複層状態の森林への誘導



③ コンテナ苗の活用



コンテナ苗



植栽器による植付

④ シカ防護柵の設置



残存立木を支柱として活用



仕切線の設置